

## 12月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

年末を迎え「終わりよければ、すべて良し」「終わりは次の始めなり。油断大敵」と体調管理に万全を期した。ところが、今月はイベント、クリニックが特に多かったせいなのだろうか、生まれて初めて(記憶に残っている範囲)インフルエンザに負けてしまった。今まで予防注射もせず、家族がかかっても私だけは無事であったのに必勝不敗の神話は崩れ去った。私も一つくらい神話をもちたかったが番狂わせは起きた。家族からは厳重な隔離対策を命じられ、命の水「ビール」もお預けで年を越さなければならなくなった。

### 1・鬼娘の言葉から

◆「お父さんも流行を追うんだ!」〈12月27日インフルエンザ撃沈の連絡を受けて〉

決して流行を追わないわけではない。バスケットボールでも世界の流行を追い求めてクリニックに活用している。流行は泳いで、流されない、溺れない。独りよがりにならないよう周囲の情報にも耳を傾ける。あまりキョロキョロしないで背中をシャキッとしながら歩く。人呼んで「ソロ・サピエンス」。なんちゃって!

### 2・新聞等のコラム

◆「善きことを行うことに倦まず、心を失うことがなければ、季節がまた廻り来て、なすべき仕事がある」〈朝日新聞・福岡伸一の動的平衡から〉

聖書の言葉を下敷きにしたヒラリー氏の大統領選挙敗北宣言最後の言葉である。生物の急激な変化には揺り戻す力が必ず働くことを福岡氏はアメリカの平衡感覚に期待してコラムに書いた。私がこの言葉から思いついたのは、2年前から指導に協力させていただいてきた坂下ミニバスの躍進である。負けてばかりいたが、あきらめずに基本をやり続けることで県大会出場の季節が巡り来て、県選抜選手の仕事もやってきた。

◆「人間は歴史を選ぶことはできない。しかし、その歴史から何を学ぶかを選ぶことができる」〈安倍首相の真珠湾慰霊式訪問におけるオバマ大統領のメッセージから〉

70年前の戦争の遺恨は戦争とは無関係の世代まで尾を引く。終ってしまった歴史はどうすることもできないが、「何をすべきかはすぐわからなくても、何をすべきでないかは歴史が教えてくれる」を肝に銘じ、戦争の歴史は常に学び続けなければならない。

◆「I ain't got no quarrel with them Viet Cong (ベトコンとは争いはない)」〈故ボクシング元世界ヘビー級チャンピオン・モハメド・アリの言葉。徴兵を拒否してライセンスを失う〉

戦争のない時代に生まれて本当に良かった。これからもずっとこのような時代が続いてほしい。戦争がないからずっと大好きなバスケットボールをやることができた。私も「長州人や薩摩人、アメリカ人や中国人との争いはない」と、その時代に拒否できただろうか。

◆「人の時間は無限ではない」〈電通社長の辞任を決めた記者会見での言葉〉

若い頃は時間は永遠に続くような錯覚を持つが、有限であることに早く気づかなければならない。過ぎてしまえば短い人生だが、夢と希望に導かれた美しい苦悩の日々を持つ者は幸福である。これからも毎日が「愛しき日々」であるよう、1年の締めくくりをゆっくり振り返る時間を持ちたい。